

指名打者(DH制)について〈野球規則 5.11〉

チームは必ずしもDHを起用しなくてよい。ただし、起用しなかった場合には、その試合の途中からDHを起用することはできない。また、DHを試合中に解除して守備の9人のみにするというメンバー変更が可能である。このときも再度DHを起用することはできない。

1. DH制の適用

- ① 攻撃時に投手の代わりに打席に立つことができる。(JSBB学童では投手以外は適用出来ない)
- ② 試合前、オーダー用紙に記載する事 (試合途中でDH制は適用できない)
- ③ 指名打者に代えて代打、代走を出すことは出来る⇒指名打者の役割を受け継ぐ
- ④ 試合前に、オーダー表に記載された指名打者は、相手チーム先発投手が交代しない限り、その投手に少なくとも一度は打撃を完了しなければならない
(指名打者にいわゆる”当て馬”使えない)
試合中のケガなど、球審が認めた場合はこの限りでは無い
- ⑤ 指名打者を使うかどうかは、チームの任意である

2. DH制の消滅

- ① 指名打者が守備についた場合
- ② 投手が他の守備位置についた場合
- ③ 指名打者の代打者、代走者が試合に出て、そのまま投手となった場合
- ④ 投手が指名打者の代打者または代走者になった場合
試合に出場している投手は、指名打者に代わってだけ打撃または走者になることが出来る
- ⑤ 他の守備位置についていたプレーヤーが投手になった場合

3. DH制消滅後の打順

- ① 指名打者Dが野手になる
Dの打順は変わらず、投手は退いた野手の打順に入る
- ② 指名打者Dが投手になる
Dの打順は代わらない
- ③ 投手Pが野手になる
Pは退いた指名打者Dの打順に入る
救援した投手は退いた野手の打順に入る
- ④ 投手Pが指名打者Dに代わって打撃する
Dは退き、PはDの打順に入る
- ⑤ 野手Fが投手になる
新たに出場する野手が退いた指名打者Dの打順に入り、Fの打順は変わらない

【参考】先発投手が指名打者を兼ねる(大谷ルール)JSBB学童では採用しない。

先発投手が指名打者を兼務することができる。この場合、監督は自分のチームの打順表に10人の選手を記載するが、そのうち先発投手と指名打者の2か所に同一の選手を記載することになる。この選手は、投手としては退いた(他の投手と交代した)としても指名打者として残ることができるが、再び投手として登板することはできない。同じく、指名打者としては退いた(代打または代走が起用される)としても投手として残ることができるが、再び打席に立つことはできない。この選手が試合から退く場合、他の選手が投手と指名打者を兼ねることはできない(野球規則 5.11(b))。